

令和3年度 学校評価（分掌等）

- 1 分掌
総務・教務・生徒指導・進路指導・保健・特別活動・研修

- 2 委員会
教育課程検討・キャリア教育推進・校内LAN運用管理
修学旅行検討・支援

- 3 学年部
1年・2年・3年・4年

- 4 教科
国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・芸術・英語
家庭・情報・商業・地域環境

本年度の目標達成度 評価基準

- A 達成

- B ほぼ達成

- C やや不十分

- D 不十分

令和3年度

総務部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 P T Aや教育振興会との連携を図り、教育環境の整備充実と定時制の活性化に努める。 2 各分掌間の円滑な連絡調整を図る。 ----- <手立て> 1 P T A活動の活性化と教育振興会や関係諸団体との連携、協力を行う。 2 分掌間の連絡・調整を密にし、校務運営の活性化を促す。 3 学校行事の企画、立案と円滑な運営を行う。 4 防災意識の高揚と危機管理体制を強化する。 5 情報発信と広報活動を計画する。	P	
実施状況・達成状況	1 各分掌と協力しながら各式典などスムーズに実施できた。また、各総会や防災訓練も実施することができた。残る卒業式等滞りなく行いたい。 2 P T Aとしての情報発信や広報活動は不十分だった。	D	
成果と課題	1 教育振興会総会及びP T A総会を実施できたことは大きい。特に、P T A総会への出席者数はわずかではあるが増加していて、役員改選へも積極的に協力していただいた。 2 防災マニュアルの更新と広報活動の充実を図りたい。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	1 教育振興会やP T A活動の活性化のためH P等を活用しながら積極的に情報発信や広報活動を図る。 2 防災マニュアルの計画的な更新を行う。	A	

令和3年度

教務部

本荘高等学校校定時制課程

今年度の重点目標	1 成績処理をより効率的に行う 2 新学習指導要領への準備を進める 3 ICT機器の効果的な活用を進める	P	
	<手立て> 1 3学期制に適応した成績処理関係の各種様式の変更と改善を行う 2 新しい指導要録に備えるため、観点別評価の評価計画のモデルを作成する 3 研修部、校内LAN運用管理委員会と連携し、電子黒板等ICT機器の研修を行い活用を進める		
実施状況・達成状況	1 成績処理関係は順次変更している。3学期制にともなう大きな障害はない。 2 新1年生の科目について観点別の評価計画案を作成した。 3 ICT機器についての研修は1学期のみであったが、すぐに活用状況が見えるため、各自の授業でもできそうなよい活用があれば声を掛け合って共有している。	D	
成果と課題	1 次年度以降半期認定は取りやめ、すべて年度末に単位を認定を行う。	評価	C
	2 現在、観点別に評価し運用していくため成績処理様式一式を作成中である。全職員と共有しながらより良い準備をしたい。 3 学校内の授業でのICT機器の活用は、各教職員の工夫で進んでいる。休校等で持ち帰ったときの接続、リモート授業のための接続確認を今年度3学期中に行いたい。	B (A~Dで)	
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・新指導要録記載内容の準備と確認・学習評価・成績の記録の調整と運用・高校入試新制度の準備と実施	A	

令和3年度		生徒指導部		本荘高等学校定時制課程
今年度重点目標	1 「定時の心得」を改訂し、生徒の自己管理・自己責任の意識の醸成を図る。 2 生徒指導部内規の早期整備を図る。 3 生徒と学級を支援する生徒指導の実践と充実を図る。			P
	<手立て> 1 生徒会と協力しながら定時の心得の定期的な検討と充実を図り、共通理解を深めるとともに自律を促し自立を目指した指導の実践する。 2 周辺各校の内規を参考に生徒指導内規を作成する。 3 生徒を支援するという考え方に基づいた生徒観察とスムーズな情報共有の仕組みの構築する。			
実施状況・達成状況	1 昨年度に改訂することができなかった「定時の心得」を年度初めの生徒総会で改訂することができた。 2 由利本荘市にかほ市周辺高校の内規、校則の情報を収集することができたが、本校に合った内容をまとめるところまではできなかった。 3 生徒観察と情報共有については、年2回の学校生活調査や全職員のご協力のもと職員朝礼、職員会議で十分にできた。			D
成果と課題	1 「定時の心得」で生徒の学校生活を安全に過ごせるように、その都度、確認をさせていきたい。また、時代にあわなくなっていくような項目は検討の上、生徒に考えさせて改定をしていきたい。 2 今後も定時制の校則、内規について検討をして早期整備を図りたい。 3 今年度は懲戒処分になるような案件がなく、普段から先生方の声かけや情報共有のおかげであると感じている。		評価	C
			B (A~Dで)	
次年度への提言	新たな校則や生徒指導内規については、しっかりと本校の実情を考えて作成していきたい。生徒指導部の人員が3名のみなので、今年度は2人以上の聞き取り調査が同時に重なってしまった場合、生徒指導部の人員が足りなくなってしまうことから、できれば生徒指導部にもう1名の増加配置をお願いしたい。			A

令和3年度

進路指導部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 卒業予定者全員の進路決定を目指す。2 関係機関と連携した進路指導を行う。3 生徒が自主的かつ計画的に進路活動を行えるよう支援する。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 面談や声かけ、情報交換など、日常的に全職員が指導にあたる。2 卒業予定者に限らず1・2年生や4卒3年生についても、Eサポートやハローワーク、職場定着支援員等と情報を共有し協力して指導する。3 「進路の手引き」を活用し、見通しをもった計画的な進路活動を行わせる。	P
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 毎週（水）打ち合わせ時の情報交換により、進路活動の進捗状況を全員で共有することが容易になった。面接練習は全職員の協力を得ることができた。1月上旬までに全員の進路が決定した。2 職場定着支援員と生徒が面談する機会を頻繁に設定し、生徒の意識向上を図った。また、特別な支援が必要な生徒について、支援委員会主導でEサポートや職場定着支援員と協力してインターンシップを実施することができた。3 「進路の手引き」については、生徒または担任により活用の仕方に個人差があったが、生徒が自主的に面接練習をお願いする姿が見られた。	D
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 就職希望者は夏休み中に複数社の職場見学を済ませ、11月中旬に全員内定を得ることができた。進学希望者も1月上旬までに全員合格が決まった。2 職場定着支援員は本校生徒の実情をよく理解しているので、週2回の勤務であってもうまく連携できた。生徒だけでなく保護者との面談も実施してくれた。特別な支援が必要な生徒については、支援委員会任せとなっている。今後も支援委員会との連携が不可欠である。3 「進路の手引き」を活用するタイミングや方法について、進路指導部から提案することも必要だったかもしれない。	評価 B
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・「進路体験を語る会」開催の可否（R4卒業予定者3名）、またはそれに代わる進路行事の検討・インターンシップ担当を2年副担任とする（R3からの継続）・「トップが語る秋田の企業・職場見学」を学年行事と位置づけ、担当を1年副担任とする（R4から）・学校推薦のあり方（推薦選考基準がない中で、あいまいさや不透明さをなくすためにどうするか、共通理解が必要と考える）	C A

令和3年度

保健部

本荘高等学校校定時制課程

今年度重点目標	1 基本的な生活習慣の確立に向けた指導を充実させる 2 思いやりの気持ちを育む ----- <手立て> 1 生活リズムや食事、運動、心の健康等に関する情報を計画的・継続的に発信する。なかでも食育に重点を置き、保健講話の実施、特別活動部と連携した行事の食事の指導を行う。 2 SGE(構成的グループエンカウンター)やSST(ソーシャルスキルトレーニング)で生徒の人間関係作りを促す働きかけを継続して行う。	P
実施状況・達成状況	1 集会や「ほけんだより」で健康に関する情報を継続的に発信した。また、食に関する内容の保健講話を実施した。その後、特別活動部と連携し、食育につながる行事を実施した。 2 1、2年生合同でSST(ソーシャルスキルトレーニング)で人間関係について考える機会を持つことができた。	D
成果と課題	1 保健講話と行事を同じ時期に実施できたことが良かった。生徒は講話を通して食の大切さや必要性を学び、行事を通して食の楽しさを体験することができた。 2 1、2年生合同で実施したため、ペアでの話し合いが異学年交流の場にもなりよかった。単発の機会になってしまい、年間を通して継続的な指導を実施できなかった。	評価 B (A~Dで)
次年度への提言	1 特別活動部の行事「なべっこ」と連携し、行事の前に食に関する指導を工夫して実施する。 2 年間を通して継続して実施する計画を初めに提案する。縦割り活動の提案。	A

令和3年度

特別活動部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 新しい生活様式に合った行事の企画・運営を行う。2 生徒の意見を取り入れた学校行事を計画する。3 キャリア・パスポートの改善に向けた検討を行う。 <hr/> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 飲食を伴う学校行事について、感染拡大防止に必要な手立てを十分に行った形での開催に向け、開催方法を検討する。2 各種行事において、生徒会執行部と協力して企画を行う。3 キャリア教育推進委員会と連携し、活用状況や課題について検討する。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 校外学習としてのなべっこは中止になったが、代替行事として校内でのなべっこを11月に実施した。2 ミニ運動会や球技大会、僚星の作成で生徒会執行部が中心となって活動した。3 記入に際しての呼びかけはできたものの、内容の再検討や改善案の収集には至らなかった。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 状況に応じて全職員の協力を得ながら機動的に運営することができた。次年度以降については、コロナ禍以前の行事とコロナ禍後に生まれた行事の取捨選択が課題となる。2 生徒会活動に参加してくれている生徒の意欲は高いが、参加人数が少なく、執行部員の募集が課題となる。3 呼びかけを続けるとともに、各学年の活用状況や生徒の取組状況の確認を行う必要がある。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・学校行事の取捨選択・コロナ禍によって持ち越された予算の計画的な活用・キャリアパスポートの活用状況の共有	A	

令和3年度

研修部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 校内研修の充実を図る。 2 授業改善に向けた情報発信に努める。 ----- <手立て> 1 年2回の授業参観週間や授業研究会、校内研修会を実施する。 2 授業アンケートを実施し、研修だよりを発行する。	P	
実施状況・達成状況	1 授業参観は予定通り実施できた。授業研究会は行わなかったが、校内研修会に行った。 2 授業アンケートは行ったが、研修だよりは発行しなかった。	D	
成果と課題	1 タブレットや電子黒板に関する授業参観や校内研修会を実施することができた。授業参観に関しては、より活発なものにしたかった。 2 授業アンケートの方法を記述式に変更してみたことはよかったが、質問項目等、検討すべきところがあった。研修だよりは発行しなかったが、ICTについての事例について、適宜、まとめて回覧し共有を図った。	評価 C (A~Dで)	C
次年度への提言	よりいっそう授業参観や校内研修が活発になるような仕掛けが必要であると思った。 授業アンケートを記述式に変更したことはよかった。今後、質問項目などの検討は続けていくべきだと考える。また、紙でアンケートを行うのではなく、googleフォームで行うことも検討の余地があると思う。	A	

令和3年度

教育課程検討委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 新教育課程の作成2 新教育課程へのスムーズな移行のため準備 <hr/> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 令和2年度より作成・改善してきた令和4年度入学生の教育課程を確認、調整し最終決定する。2 移行期（令和4年度～令和6年度）の当該年度の教育課程を確認する半期認定科目の必要性の確認と解消を進める	P
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 履修歴が必要な科目の見落としがあったが、調整し最終決定をすることができた。2 令和4年度入学生の教育課程から前半後半履修科目（半期認定科目）を解消できた。	D
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 令和4年度の教育課程を最終決定した。 実際に運用する中で問題点が出てきたときには、柔軟に対応していきたい。2 前半後半履修科目（半期認定科目）を解消できた。	評価
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・教育課程の再確認と調整・学校設定教科（特にキャリア教育）の科目について（内容を確認と次年度の学習計画作成）	C B (A～Dで)

令和3年度

キャリア教育推進委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">キャリア・パスポートの改良を行う。本課程におけるキャリア教育のあり方を検討する。 <hr/> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">特別活動部と連携し、生徒にとって意義のあるキャリア・パスポートとなるよう、内容や活用方法について検討する。進路・特活・保健部の主任が属している強みを生かし、各分掌の見地から本課程におけるキャリア教育のあり方を検討する機会を設ける。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">キャリア・パスポートの活用はされているが、改良のための意見や活用状況の収集はできていない。意見交換の場を設定することができていない。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">運用上問題は発生していないため、改良の必要性は低いかもしれないが、各学年の活用状況が見えていない。活用状況を共有することで指導の質を上げる余地があると考えている。委員会主導での検討会等はなかったが、全学年・週一回のヨガトレ実施など、目指す生徒像の実現に向けての取り組みが見られている。	評価	C
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">キャリアパスポートの活用継続キャリア教育推進委員会の必要性の検討 (特活主任名義と使い分ける必要性を感じなかった)	C (A~Dで)	A

令和3年度

校内LAN運用管理委員会

本荘高等学校校定時制課程

今年度重点目標	1 校内LANの安定した運用を行う 2 各分掌と連携を図り、ICT機器の効果的な活用を進める 3 図書コーナーの利用の促進と管理を行う ----- <手立て> 1 全日制と連携し、業務系、高速無線LANの安定運用を行う 2 教務部や研修部と連携し、ICT活用の研修を行う 3 図書利用の呼びかけを行う 図書利用者一覧表を作成し、図書および利用者を把握する	P	
実施状況・達成状況	1 業務系につながらないことがあったが、中継しているHUBを確認し、故障を確認しHUBを交換した。 年度当初、高速無線LANの接続が不安定な時期もあったが、4月下旬以降は安定している。 2 1学期にICT活用の研修を行った。2学期以降は行ってないが、声を掛け合いながら、比較的活発な活用がされている。 3 図書の授業の中で活用している様子も見られるが、まだまだ少ない。	D	
成果と課題	1 全日制の担当者と連携しながら、運用できた。 2 定時制では活用事例を廊下から見ることが出来る状態であるが、活用方法を共有し合える工夫をしたい。 また、生徒がタブレットを持ち帰って、自宅のWiFiに接続して、学習できることを確認したい。(現時点では学年末考査終了後の時期を考えている) 3 図書コーナーの利用については、さらなる声かけの必要を感じている。	評価	C
次年度への提言	・より良い機器の整備を行い、より良い管理を工夫する ・タブレット等ICT機器の有効活用の研究を継続する ・図書の活用を進める	B (A~Dで)	A

令和3年度

修学旅行検討委員会

本荘高等学校校定時制課程

今年度重点目標	1 安全で有意義な修学旅行の実現を目指す。 2 来年度の修学旅行について、今年度中に計画を立案する。 ----- <手立て> 1 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、生徒及び保護者への説明会を充実させるとともに、状況に応じて臨機応変に対応する。 2 生徒数減少の現実を踏まえ、生徒や保護者の意見を聞きながら、2学年同時実施（隔年実施）の実現が可能か検討する。	P	
実施状況・達成状況	1 新型コロナウイルス感染症が拡大したことから、生徒・保護者のアンケート結果も考慮し、今年度の修学旅行は中止の判断をした。 2 現在の2年生に対して生徒と保護者にアンケートを実施した。アンケート結果と新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、令和5年度に4年生と3年生（現在の2年生と1年生）が合同で修学旅行を実施することとした。隔年実施については、来年度以降の検討としたい。	D	
成果と課題	1 修学旅行の中止は残念であったが、生徒の安全のためにはやむを得ない判断であった。先行き不透明な現状で、今後計画をたてる場合でも変更や中止など臨機応変に対応できるよう、業者との密な連絡が必要である。	評価	C
	2 将来的に隔年実施となるのかどうかはコロナの状況がある程度落ち着いてからでないと判断できないが、生徒数が減少している中でそのような選択肢もあることを、今回示すことができた。	B	
次年度への提言	・令和5年春の実施に向けた、早めの計画立案と業者選定 ・2学年合同実施のための、生徒間の人間関係づくり	A	

令和3年度

支援委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 生徒の自己理解を促す活動を充実させる2 生徒理解・相談活動に関する研修を行う3 チームとしての支援を充実させる <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 アルバイト事業所訪問後の生徒との面談、支援が必要な生徒への個別の支援（ソーシャルスキルトレーニング等）を継続し、生徒が得意なこと、苦手なこと等を自覚できるような働きかけをする。2 教育専門監等と事例検討会を実施し、生徒理解と支援につなげる。3 高等学校特別支援隊、外部関係機関と連携し、効果的な支援を行う。	P
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 教育相談週間やアルバイト事業所訪問後の面談、インターンシップの事前事後指導等で、生徒の自己理解を促す働きかけを行った。2 支援委員会を開催し、医療機関や支援機関からの見立て等を共有し、生徒理解を深めることができた。3 Eーサポート、由利本荘市障がい者基幹支援センター、にかほ市障がい者基幹支援センターと保護者とのケース会議を実施し、保護者の子ども理解を促し、支援につなげることができた。	D
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 支援が必要な生徒の個別の支援には、時間と労力と精神力が必要とされるが、すぐには効果がでないため、支援者の心が疲労してしまう。2 保護者が子どもの状況を理解するには、時間がかかるため、入学時から学校と保護者の話しやすい関係を築いていく必要がある。また、学校だけではなく、医療機関や支援機関との関わりも重要であった。3 地域の医療機関や支援機関との連携や情報交換が、スムーズな支援につながった。	評価
次年度への提言	<ol style="list-style-type: none">1 個別の支援の工夫2 保護者面談の継続3 地域の支援機関とのさらなる連携	C B (A~Dで)

令和3年度			1年部		本荘高等学校定時制課程	
今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣の確立を図り、自律した学校生活を送らせる。 2 集団の中でともに生きるための豊かな人間性と環境適応力を身につけさせる。 3 働学一体の実現に向け、努力する姿勢と公民的資質を身につけさせる。 <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「定時の心得」やクラスのルールを徹底し、個人面談や保護者面談を行い、保護者との連絡を密にする。 2 LHR、総合的な探求の時間、学校行事を通してクラスの団結力を高める。 3 キャリアパスポートを用いて将来の見通しを持たせ、アルバイトや資格取得などを奨励する。 				P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラスのルールを見直しながら共有していくことができた。個人面談や保護者面談も概ね予定通りに実施することができた。 2 クラスの雰囲気がよくくなるような取り組みをいくつか行った。 3 将来というほど先の話まではできなかったが、1年間の見通しを持たせることはできた。 				D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 ルールを必要に応じて変更し、実践しているが、挨拶はまだまだである。個人面談や保護者面談を通して個別にじっくりと話をすることができた。 2 クラスの雰囲気が固く、なかなか打ち解けていない。行事を欠席する生徒もいる。 3 1年間の見通しを持たせることで、欠席が長引く生徒があまりいなかったのはよかった。アルバイトは半数の生徒が取り組んでいる。資格取得には取り組めていない。 	評価		C		
		B (A～Dで)				
次年度への提言	<p>家庭的な問題など様々な事情を抱えている生徒が多く、色々な面で時間がかかると思われる。この1年に関しては、高校生活の概観を把握した1年になったと思う。</p> <p>次年度は、これまでの取り組みを継続しつつ、適宜、改善しながら粘り強く取り組んでいくことが必要であると考え、アルバイトから得ることも大きいし、後輩ができると気持ちも幾分変化すると思われる。</p> <p>機を捉えて声がけをし、家庭とも連携を続けながら、様々な場面で成長できるように支援していくことが大切であると思う。</p>				A	

令和3年度		2年部		本荘高等学校定時制課程	
今年度重点目標	1 他者との関わりを通して自己理解を深め、他者を尊重し協力して取り組む姿勢を育てる。 2 将来の進路について真剣に考え、進路目標を明確にするための準備をする。			P	
	<手立て> 1 クラス内にとどまらず、学校行事等で学年をこえた人間関係作りに意識的に取り組ませる。 2 進路セミナーや講話、インターンシップの事前・事後指導を充実させ、自分の興味や適性について考えさせる。				
実施状況・達成状況	1 LHRや総探では自分の意見を述べたり相手に質問したりする活動を増やし、他者との関わりの中で自分を見つめ直す機会をつくった。また、ミニ運動会や球技大会の縦割り活動や、養護教諭を講師に迎えての1年生と合同のSSTなど、他学年との交流の場を設定した。 2 インターンシップの事前学習として、職業理解のための講話、マナー指導、事業所調べ等を行った。事後学習として、まとめの作文を書き、事業所に礼状を送った。また、就職活動サポートセミナーに参加し、興味ある事業所の説明を聞くことができた。さらに、外部講師を招いて就職準備の講話を聞き、職業適性診断を行った。			D	
成果と課題	1 クラス内では、清掃活動や日直の仕事、教室の施錠など二人で協力する姿が見られ、お互いを気遣いながら行動することができている。一方、他学年との人間関係では、関わるのは特定の人に限定される。行事等で言葉を交わすことがあってもその場限りで、校内での交友範囲は非常に狭い。	評価	C		
	2 夏休み3日間のインターンシップでは、自分の将来の職業を意識しながら、アルバイトとはまた異なる学びがあったようだ。校外で開催されたセミナーや外部講師を招いての講座もよい刺激となったが、自己の適性把握や将来設計については、まだまだこれからである。	B			
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ R 5 修学旅行（1学年下と合同）実施に向けた、人間関係作りの工夫 ・ 進路活動への意識付けのための、早めの取りかかり 			A	

令和3年度

3年部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 3卒予定者の具体的な進路目標の設定と進路実現を目指す。</p> <p>2 4卒予定者の進路目標設定に関わる情報収集と具体的な活動計画を考えさせる。</p> <p>3 積極的に生徒会活動や学校行事へ参加し、有意義な学校生活を送ることができるよう促す。</p> <p>----- ＜手立て＞</p> <p>1、2 自身の特徴や職業適性を客観的に把握し、アルバイト、インターンシップなど就労体験を積むことができるよう「総合的な探究の時間」と連動しながら情報収集力を高める。</p> <p>3 直接の会話によるコミュニケーションの習慣と能力を身につけ、多様な価値観に触れ、周囲を理解し思いやり助け合う。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 将来のキャリアデザインをじっくりと考えさせ、卒業予定者2名とも進学を希望し、早期に準備を始めることができ、進路が決定した。</p> <p>2 4卒予定者は具体的な進路目標がなく、就職支援員との面談や進路適性検査を実施しても意識が高まらず苦労した。支援委員会の協力のもと、外部機関との連携を図る道筋はできたので、外部機関、保護者との連絡を密にしていきたい。</p> <p>3 生徒会行事に積極的に参加し、他学年の生徒とも楽しむ姿が見られた。</p>	D	
成果と課題	<p>1 面接指導、口頭試問対策など先生方のご協力のおかげで順調に試験日を迎えることができた。</p> <p>2 自分がやりたいこともない、できることもわからない生徒に対して進路目標決定のために、さまざまな方法でアプローチをしたが成果が上がらなかった。</p> <p>3 他学年の生徒と話すことが苦手な生徒が多く、ミニ運動会、球技大会のクラス対抗形式ではない縦割りのチーム作りのおかげで多少は交流を深めることができた。学年でのなべっこは、会話しながら協力して作り上げることができていた。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>4卒予定者の進路決定のために、しっかりと準備を進めさせたい。外部機関や就職支援員の連携を密にできるように、心がけていきたい。</p>	A	

令和3年度

4年部

本荘高等学校定時制課程

今年度の重点目標	<p>1 自他を知り、寛容と共生の心を自ら育てる。 2 定時の心得を尊重し、最上級生として手本を示す。 3 進路実現と自己実現を目指す。</p> <hr/> <p><手立て> 1 アルバイトやボランティアへ積極的に取り組んだり、国内外の情報を広く収集したりすることで様々な意見や考えを知り、多様なあり方を認め合う。 2 定時の心得を理解し、遵守して手本を示す。 3 日々の小さな目標を立てて成功体験を積み重ねたり、進路目標の達成を目指して努力を積み重ねたり、常に目標を掲げて自分らしく生き生きと生活する。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 新聞などの活字媒体を積極的に活用しながら世の中の動きに興味を持たせ、社会情勢の把握に努めた。</p> <p>2 最上級生として定時の心得を理解し、尊重することや学校行事の企画運営に積極的に協力するよう促した。</p> <p>3 進路実現を目指し、計画的に夏季補習や会社見学を実施できた。</p>	D	
成果と課題	<p>1 自発的に新聞を読む姿を見ることはできなかったが、総学やLHRを活用しながら国内外の様々な情報を把握し、面接や作文対策に活かすことができた。卒業予定者全員の第一志望が叶えられたことは極めて大きい。</p> <p>2 問題行動がなかったわけではないが整容の乱れはなく、欠席や遅刻も少なかった。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	○ 次年度へ引き継げるよう資料を整理したい。	A	

令和3年度

国語科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 社会で必要とされる基礎的な漢字・語彙力の定着を図る。2 言語活動を充実させ、文章読解力・自己表現力を向上させる。3 新聞記事や評論教材を用い、様々な視点を考え客観的な意見を持たせる。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 授業において国語辞典、漢和辞典を積極的に活用させる。振り返りで定着を確認する。2 話し合いや読解の成果を、単語ではなく一定量の文章として発表する機会を設け、表現力をつけさせる。3 新聞コラムや最新の時事を授業で取り扱い関心を持たせる。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 教科書で学習した単元の漢字や語彙の学習プリント、確認プリントを作り、繰り返し学習させた。また、長期休業課題としても基礎的な漢字の学習プリントの学習にとりくませた。2 文章を読み取ることはできても、それをもとに自分の考えをまとめたり書いたりすることができない生徒が多かった。3 毎週水曜日に送信されてくる読売新聞ワークシートを授業で活用した。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 自ら繰り返し練習するために同じ学習プリントをもらいに来る生徒がいたり、国語辞典を引き学習に取り組む姿が見られた。2 自分の考えを発表することに抵抗感をもっていたり、学級の雰囲気積極的に話すことができない生徒の姿が見られたので、今後、自分の考えをまとめたり、発表する方法を工夫していきたい。3 時事問題について、この話題は知っていると言ったり、知らなかった話題に興味を持って新聞記事を読むことができた。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	新聞記事に書かれている内容について、ただ受け入れるだけでなく、自分の意見を持って記事を読めるように指導していきたい。漢字学習についてはしっかり取り組んでいるので、まずはきちんと教科書を読めるようにさせたい。その上で、自分の意見を論理的に説明できるように指導していきたい。	A	

令和3年度

地歴・公民科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 基礎的・基本的な学力を定着させる。 2 言語活動を中心とした学びの場をつくる。 3 現代の社会情勢に目を向け、様々な視点を考え、客観的な意見を持たせる。</p> <hr/> <p><手立て> 1 関心意欲を高める教材を選定する。習熟度に応じた授業を展開する。 2 学んだことを表現する場を設ける。補助教材としてICT機器を有効に活用する。 3 就職・進学試験も視野に入れ、時事問題を取り上げる。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 電子黒板を用いて視覚的な理解を図った。クラス分けは行っていないが、進度の早い生徒に対しては発展的な課題を用意した。毎時の始めに、前時の復習の時間を設けたが、記憶の定着には至らなかった。 2 考査では記述問題を設けたが、授業の中では表現する場をあまり設けることができなかった。 タブレットを用いてのレポート作成や資料を協同して読解する作業を試みたが、生徒同士の関わり合いが少なく、深い学びには至らなかった。理由や根拠を述べさせるほどに自身の発した意見と自己矛盾する生徒が多く、論理的に説明させることが難しかった。 3 ニュースや新聞の話題を随時取り入れた。</p>	D	
成果と課題	<p>1 言葉だけでは伝わらないことも視覚的な情報により理解が深まっているようだった。 口頭での振り返りではあまり効果がなかったため、記述する形での復習も試してみたい。 2 クラスや生徒の状況を考え、基礎基本を重視したが、少しずつでも表現する場を設けるべきであった。 意見交換の機会を設けても他人と関わるできない生徒が多く、他の生徒に教えてもらうこともできておらず、学びに差ができてしまっている。 3 ニュースや新聞に関する情報はかなり不足していたので継続する必要があるように感じた。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>視覚的な情報のためにもICT機器の使用は継続していく。 基礎を重視しつつも発表や表現の機会を設定するようにする。 時事に関する話題も継続して取り入れていく。</p>	A	

令和3年度

数学科

本荘高等学校定時制課程

今年の重点目標	<p>1 望ましい学習態度を育む 2 基礎的・基本的な学力の定着を図る 3 数学的思考力を育む</p> <p>----- ＜手立て＞ 1 2 到達目標を明確にし指導に当たるとともに、学力差を考慮し個別指導も積極的に行う。 電子黒板を効果的に活用するための研修に努め、生徒の意欲を喚起する手立てを講ずる。 3 定型的な問題を通して、題意を適切に読み取る力及び数学的な見方や考え方を身につけさせる。また、日常生活における題材を通して数学的思考の大切さを実感させる。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1・2について (1年) 習熟度別クラスを編成し、学力差を考慮した指導を展開した。標準クラスでは理解度の高い生徒に発展的な問題を用意し意欲の向上に努めた。 (2・4年) 教科書その他、理解度を確認しながらプリントを使用。授業の始めに流れを示すことで出来るだけ関心をもたせるようにした。ドリル学習も適宜行い理解の定着を図った。 (3年) 理解度を測るために、内容毎に確認テストを実施。到達目標の提示にもなった。指名し答えさせる場面では意図的な指導をした。作図の指導で実物投影機を使用し効果を図った。</p> <p>3について 各学年で題材の精選や工夫をした。また、ドリル学習を取り入れるなど学習したことを定着をさせることに努めた。生徒に意欲向上の様子が見られたり効果を感じる取り組みもあった。</p>	D	
成果と課題	<p>(1標) グループ学習では、互いに教え合うグループは学力が向上する一方で、教え合うより私語が多かったり、分からないまま聞かずにいる生徒もいた。 (1基・2・3・4年) 定型的な内容を繰り返すことでの効果は一定程度あった。しかし、学習内容を定着させたり繋がりを理解させること、数学的な思考を育むことは難しく課題が残った。 (電子黒板) 個々の研修に任せ、数学科としての研修会は実施せず。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>1 クラスの雰囲気作りに気を配る。出来る限り知的な雰囲気を作っていくことを心掛ける。 2 小・中学校における基礎学力を定着させるための指導を継続的に行う。各学年とも、春・夏・冬休みの宿題を活用するとともに休み前後の授業に定着のための指導を組み入れる。 3 電子黒板やタブレット端末の活用を推進する。 個に応じた指導や、ICT機器の強みを活かした授業を展開していかなければならない。生徒の理解につながる授業、効果的な授業を実践していくことが大切である。</p>	A	

令和3年度

理科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 科学への興味・関心を持たせる。2 物事を科学的にとらえ理解できるようにする。3 自らの考えをまとめ、表現する習慣を持たせる。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 観察や実験の機会を充実させる。2 自分の考えを整理し、まとめる時間や、生徒同士の意見交換の場を設けて、自分と他人との考えを比較し学びを深めさせる。3 自らの考えをまとめ、表現する習慣を持たせる。 また、chrome bookを活用し、実験レポートを作成させる。	P
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 アルコール発酵（科人と人間生活）、物質の分離（化学基礎）、DNAの抽出（生物基礎）、岩石標本の観察（地学基礎）等の実験、観察を行った。2 観察、実験等の考察時や教科書、資料集等から情報を読み取り、自分の考えを基に他者との意見の共有を行う機会を設けた。3 事前に指導者側が用意したレイアウトを用いて、タブレット端末で実験レポートを作成することができた。	D
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 昨年度に比べ回数、内容ともに充実させることができた。実験器具だけでなくハサミやカッター等の生活ツールを扱う工作的な活動も行うことができた。基本的な操作をしっかりと身に付けるための工夫が今後の課題である。2 自分の意見を文字や図で表現し、他人と共有するのが苦手な生徒が多数見られた。3 実験結果の撮影からレポート作成までタブレットを活用することができた。生徒間でタブレットの操作の差によって進捗の差が生まれることが多々あった。	評価 B (A~Dで)
次年度への提言	<ol style="list-style-type: none">1 これまでの学習経験から基礎知識や実験・観察、日々の科学体験が不足している生徒が大半であるため、実験・観察を充実させ、科学に触れる機会を増やす。2 表現方法の例示や言葉で相手に伝えるトレーニングの機会を設ける。3 考察の深さや、レイアウトから生徒自身で作成させる等、生徒の学習段階に応じて達成目標を個別に設定する。	A

令和3年度

保健体育科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 運動を楽しみ、生涯にわたってスポーツや運動に親しむ態度や能力を育む。2 主体的に学び、心身の健康の維持増進を目指す。3 <u>スポーツや運動との多様な関わりを理解し、共生する態度を育む。</u> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 他者との対話や協力といった関わりを通じて課題の解決を目指しながらスポーツや運動の楽しさを実感させる。2 自ら選択し、計画立てていく力を育てるため、体育と保健をさらに関連づけて指導する。3 得手不得手や体力の有無、障害の有無にかかわらず、多様な楽しみ方を知って尊重し合い、認め合う。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 在籍数や卒業予定者の自宅学習期間も考慮して、2年生は1月まで4年と、2月からは3年生と合同授業を行い、他学年との交流を図った。2 「生活習慣病とその予防」や「運動・休養と健康」といった単元と関連づけながら習慣的な運動の必要性を理解し、実践させた。3 観察し合う、教え合う、評価し合うことを実践させた。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 年度内に複数の学年と交流することの効果は、他者理解の観点からも大きい。2 年間を通じて体づくり運動の実践を試みた。学年によっては球技選択よりも積極的に取り組む様子が見られた。3 観察はできるものの、対話が難しく教え合う、評価しあうことができなかった学年もあった。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">○ 在籍数に関わらず、他学年との合同授業を検討したい。○ 体づくり運動は継続して取り組ませたい。	A	

令和3年度

芸術科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 筆やペンの持ち方を身につけ、整った文字の書き方を身につける。2 日常生活に用いられる実用的な書面を練習する。3 表現を工夫し、書の創作を楽しむ。 <hr/> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 基礎・基本を重視した反復練習から、正しい字の書き方を習得させる。2 キャリア教育の一環として履歴書や礼状等の実用的な書面を扱う。3 表現の楽しさや完成の喜びを味わうことができる教材を用いる。	P
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 筆順を意識するように指導した。「かな」については元々の漢字を踏まえてかくようにした。2 暑中見舞いや年賀状などの練習を行った。履歴書や礼状等は扱わなかった。3 毛筆を取り入れ、篆書、隸書、草書など色々な書体に取り組み、その表現を味わえるようにした。	D
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 一文字単体ではきれいにかけても、単語や文章になるとバランスが崩れ、集中力が欠けると字が乱れることがあった。2 はがきをかく習慣がほとんど無く戸惑っていた。教科書やタブレットで調べたものを手本にして取り組んだ。3 臨書する際、手本通りにかくことに意識が行くあまり、力強さが失われたことがあった。マンネリや飽きも見られた。	評価 B (A~Dで)
次年度への提言	<p>基本を大切にしつつ、創作的な活動にも力を入れたい。取り組み方のバランスも大事で、飽きさせない工夫が大切であると感じた。</p> <p>毛筆は、生徒にとっては日常生活と乖離しているため意欲を持たせづらいが、楽しさを感じさせる展開を考える必要があると思った。</p> <p>文字をきれいにかくことと芸術的な創作とを両立させるような取り組みを考えたい。</p>	A

令和3年度		英語科		本荘高等学校定時制課程
今年度重点目標	1 基礎・基本を身につけさせるための指導を工夫する。 2 生徒の実態や理解度を的確に把握し、それに応じた指導をする。 3 身近なことを英語で伝えようとする態度を育成する。			P
	<手立て> 1 電子黒板やタブレット端末を効果的に使う方法を研究する。 2 習熟度クラス編成やTTを実施し、理解度の低い生徒への個別の支援や上位生徒への発展課題等の作成を行う。 3 「定時制英語会話」の練習を帯活動として継続し、会話の楽しさを実感させる。			
実施状況・達成状況	1 フラッシュカードの代わりにパワーポイントで単語カードを作り、自動再生にして電子黒板に映し出して練習させた。タブレットを電子辞書代わりに使用した。 2 1年生で習熟度クラス編成を実施し、上位クラスでは発展問題を扱った。3年生でTTを実施し、T2が個別支援を行った。 3 「定時制英語会話」を毎時間実施し、英語を話すことへの抵抗感をなくし、身近なことについて話せる英語表現を増やした。			D
成果と課題	1 電子黒板を使った単語練習は、教科書やプリントを見ながらの練習よりも興味を示す生徒が多く、積極的に取り組んでいた。タブレットの効果的な活用については、自分の知識不足や経験不足を痛感しており、研究や研修が必要である。 2 1年生の標準クラスは積極的で発展問題を扱うこともできるが、基礎クラスの意欲不足や反応の薄さに苦労している。分けないほうが活気が出るかもしれないと考え始めている。3年生は学力差があるため、T2の果たす役割は大きかった。 3 「定時制英会話」は始めてから3年になるが、生徒の取り組みはとてもよく、話せる英語も増えているので、継続したい。		評価	C
			B	
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やタブレットの効果的な使用方法の研究 ・習熟度クラス編成やTTのあり方についての再考 ・「定時制英語会話」の継続 			A

令和3年度

家庭科

本荘高等学校校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 学んだ知識および技能を、生活の中で活用できるような題材・教材を開発する</p> <p>2 授業で学ぶ知識や技能が、自分の生活と深く結びついていることを実感させる。</p> <hr/> <p><手立て></p> <p>1 主体性を引き出す教材の精選および指導法の工夫</p> <p>2 身近な題材の設定</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 日常生活での出来事や疑問を引き出す発問を心がけた。成年年齢引き下げと関連させた学習内容を取り入れた。調理実習を複数回行い、調理の基礎を学習させた。</p> <p>2 調べ学習等を通して、生徒自身の興味関心や生活と結びつけて考える時間を取り入れた。</p>	D	
成果と課題	<p>1 生徒たちは意欲的に授業に取り組み、自身の生活について活発に意見交換する姿が見られた。成年年齢引き下げに対する意識はやや希薄であると感じる。</p> <p>2 調べ学習は頻繁に行ったが、自身の意見を記述させるような学習活動は少なかったことが反省点である。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・意見交換や考えの記述などの言語活動を積極的に取り入れていく。・成年年齢引き下げに対する自覚を高めるような授業づくりを行う。	A	

令和3年度		情報科		本荘高等学校定時制課程	
今年度重点目標	1 情報モラルと、セキュリティの意識を向上 2 情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技術の習得 3 プログラミングの考え方を経験する				
	<手立て> 1 タブレット、スマートフォンの利用などの各場面で、情報モラルやセキュリティの学習を取り入れる。 2 画像や図形を取り入れた文書作成を行う。 3 試行錯誤を繰り返すプログラミングを学習させる。				
実施状況・達成状況	1 情報モラルやセキュリティの学習を取り入れた授業を行った。 2 画像や図形を取り入れた文書作成を行った。 3 試行錯誤を繰り返すプログラミングを学習させた。	D			
成果と課題	1 今年度はスマートフォンの利用によるトラブルの事例は出ていないが、今後も気をつけて利用させたい。 2 画像編集の授業を行ったが、他の人との交流に困難を感じる生徒たちであり、互いの作品を評価することが難しかった。 3 プログラミング学習では、各自のタブレットを利用できたので、基本動作のプログラムは全員が作成することができた。一方、グループ内で協力して取り組むこともテーマの一つとしたが、相手に要求は抱えながらも、そのことを表現したり、伝えたりすることが出来ない生徒がいる。	評価	C B (A~Dで)		
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点目標は継続 ・ プログラミング学習の要点の明確化と内容の厳選 ・ 新教科「情報 I」への対応（計画の作成と調整） 	A			

令和3年度

商業科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 商業的な基礎的な知識と教養を定着させる 2 ビジネスソフトウェアの活用技術など、幅広いコンピュータ操作身につけさせる	P
	<p><手立て></p> 1 日常生活と結びつけ、具体的なイメージをもたせるようにする 2 ワードプロソフトウェアや表計算ソフトウェアを活用した授業を行う。タイピング練習など基本的なことを繰り返し定着させる。	
実施状況・達成状況	1 日常生活と結びつけ、具体的なイメージをもたせるようにした。 2 ワードプロソフトウェアや表計算ソフトウェアを活用した授業を行った。P検3級に2名受検し2人とも合格した。	D
成果と課題	1 日常生活と結びつけ、具体的なイメージをもたせるようにした。 2 ワードプロソフトウェアや表計算ソフトウェアを活用した授業を行った。P検3級に2名受検し2人とも合格した。	評価
		B (A~Dで)
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">・ P検を活用した情報活用に関する知識と技能の向上・ 基本的な事は本年度の目標を継続。	A

令和3年度		地域環境科		本荘高等学校定時制課程	
今年度重点目標	1 地域の自然環境と人との関わりについて理解させる。 2 郷土の資源・文化・歴史の豊かさを実感させる。 3 考えをまとめ、自分の言葉で人に伝えられるようにする。 ----- <手立て> 2 2 具体的な事例を取り上げ、地域に対する関心を高める。 パソコン等を用いて調べ、理解を深める。 3 調べた事柄をまとめ、発表する場を設ける。 パソコン等を用いてレポートを作成する。			P	
実施状況・達成状況	1 秋田県の天然記念物等の生態、河川や湖沼等の地形について調べ、まとめることで秋田の自然環境について理解を深めた。 2 各市町村の特徴や観光スポットを調べることによって地域の特性や魅力について理解を深めた。 3 地域社会では秋田県の名物や観光ルートを、地域科学では秋田県の生物や環境問題について各自で調べ、プレゼンテーションを作成し全校生徒の前で発表会を行った。			D	
成果と課題	1 秋田の自然環境について、理解を深めることはできたものの、基礎知識が不足しているため他県と比較し、秋田県の特徴を捉えられているとは言い難かった。 2 県内の市町村の位置関係を覚えることに苦労する生徒が多く、観光ルート作成や地域特性の理解まで至らない生徒が大半になってしまった。 3 全校生徒の前で発表するという経験ができた。振り返りや経験を次に活かすという面が今後の課題となった。	評価		C	
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会、地域科学共通でプレゼンテーションの技法を各授業の始めに学習したが、生徒間で定着や技法の活用に大きな差がついてしまったため、技法の活用例に段階を付けて生徒に提示する必要がある。 生徒の特性への配慮として、まとまった時間が必要となる作業にはどの作業に何時間使えるかを細かく設定し、作業工程に極端な差が付かないように配慮する必要がある。 			A	